

延Gニュースレター191号

www.jegschweiz.com

小さな証

米国宣教師の子として日 本に生まれ育ち、その 7月25日から28日までシュ

欧州キリスト者の集い の第3信が発信

後、紆余曲折を経てスイ トゥットガルト近郊で開か スの田舎に落ち着くまで れる第41回の集いの第3 の半生を振り返って。P2 信がこの度発信されまし

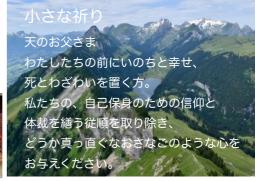
スイスJEG修養会

今年の修養会は会場を東 スイス・トーゲンブルグ のヘムベルグに戻し、大 自然の中、31名の参加 者と共に学びと交わりの 時を持ちました。P3

高原師欧州宣教旅行

高原剛一郎宣教師は、 福音を携え、初夏の ヨーロッパ8カ国10 都市を訪れました。訪 問地からのリポートを お届けします。











節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友となりた いと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。

それとも、聖書は意味もなく語っていると思いますか。「神は、私たちのうちに住まわせた御霊 を、ねたむほどに慕っておられる。 [ヤコブの手紙 4:4,5]



ちいさな証

神様はいつも私の近くに ロイ マコール

アッペンツェル外州・トイフェン村在住



私は昭和30年(1955年)米国 の長老派宣教師の長男として神戸 で生まれました。父が創立を手 伝った教会のある岐阜県大垣市 に移り住み、私は東小学校に2年 生まで通いました。東小学校で は私は大切な友達として受け入れ られ、大垣を離れることになっ たとき、先生と級友は寄せ書き を添えた立派なアルバムを贈って

くれました。そのアルバムは今も私の住まいの居間に"宝物" として保管されています。

私の父は海軍の整備士でしたが、戦後の 焦土と化した東京の悲惨な有様を目の当 たりにし、神様の愛を届けるべく宣教 師として日本へ戻りました。母は中国 への宣教師として神戸に来たあと、私 の両親は神戸で結婚しました。新婚旅 行は、当時蒸気機関車の走る参宮線で 伊勢そして長良川でした。その話をす るたびに両親の心は懐かしさで満たされ たものでした。



学校の子供達をハ レーに乗せていた。



台湾での楽しかった家庭生活 出来ました。

教会での役目を終え、私 たちは台湾の高地民族に伝 道する為に引っ越しをしま した。私たち家族は異なっ た文化を持つ二つの国で、 日本語と台湾語を使い、幸 せな家族生活を送ることが

私はアメリカでの勉学を終え、私の第二の故郷である日本 で米国の農機具会社、そして日本の金融会社で働いていまし たが、1990年代初頭、日本のバブルが崩壊し、私は解雇され ました。その後、天津の南開大学でMBAレベルのビジネス、

そして北京大学で英語と中国語 で金融論を教えていました。 そして北京のインターナショ ナル教会で、北京のスイス大 使館で外務省職員として働い ていたスイス人女性のマヌエ ラと知り合い、そして恋に落 ち、1999年に結婚しました。



妻の赴任に伴い、ニューヨーク、リヤド・サウジアラビア に移り住み、また北京に戻り、そしてワシントンDC、テヘラ ンへと世界各地に移り住みました。その間、二人の娘は ニューヨークで、三女はサウジアラビアのリヤドで生まれま

した。現在は、長女はバーゼルで研 究生活、次女は看護師への修学中、 末娘はアッペンツェル州トローゲン 村にある州立高校で学んでいます。

キリスト教は将来が読めない不確 実性を扱っており、私たちは、これ から自分たちの上に起こることを知 らないし、多くのことを自分たちの 力と意思でコントロールすることも 出来ません。しかし、日々、神様の 三人の娘・ワシントンで



恵みの中にあって、悔い改め、希望と確信をもって生きるこ とは出来るのです。

私の霊的覚醒は突然に起こったのではなく、徐々に起きた ように思います。聖書を読み始め、救い主を求め始めたと き、自分の知恵や能力、そして、努力によることなく、主に よって自分というものが変えられていったように思います。 私は中国語を学んだり、日本語を磨いたり、日曜学校で教え たり、聖歌隊で歌ったり、神様は多くの賜物を惜しむことな く与え、それを使う道も備えてくださっていました。また、 アルバイトをしてお金を貯め、18歳のときに、イスタンブー ルからインバネスまで、ヨーロッパー人旅を可能にしてくだ さいました。

自分が置かれている状況に感謝し、目の前にあるチャンス を知り、そこから生まれる良いことを認識する。それは神か らのものであり、聖霊の証拠だと思います。感謝はクリス



チャン生活の中心であります。なぜ でしょうか?感謝は祝福を受け取る 手だてだからです。私たちが感謝す ればするほど、神から私たちにはよ り多く受け取ることができるので す。

私は日本と台湾といったアジアで 生まれ育ったので、リタイア後は、

アジアで暮らすことを予想していましたが、まさかスイスの 田舎でリタイアするとは思ってもみませんでした。そして、 終の住処としたトイフェンの村で、日本語を話し、同じ信仰 を持つ日本人がすぐ近くに住み、親戚のような交わりをする とは夢にも思っていませんでした。

想像を遥かに超える神様の采配、そして摂理のなんと見事 なことでしょう。神は想像をはるかに超えることがお出来に なります。 [エペソ人への手紙 3:19,20,21]

1、スイスJEG修養会が開催



スイスJEGの修養会が会場を東スイス・トーゲンブルグ地方(SG)へムベルグ村のAlpenblickに戻し、5月24日から26日まで(マイヤー牧師による旧約聖書シリーズ・コセフの生涯とキリストの生涯との比較ーヨセフの生涯に隠されてるメシヤ的

預言のテーマで) 開催されました。

東スイスの大自然に囲まれた素晴らしい環境の下で開かれた修養会には、32名が参加し、共に学び、交わりを深め祝福のうちに終了しました。

2、前半期のゲストメッセンジャー

今年のスイスJEGは、マイヤー牧師が戦時状態にあるイスラエルと深い関わりがあるため、外部から講師をお呼びする機会が増えました。姉妹教会のフランクフルト日本語福音キリスト教会の矢吹博牧師ご夫妻には今年は5度の礼



拝説教のご奉仕をしていただきます。



今年のイースター礼拝には、現在 OMの宣教師としてオーストリア・ リンツ市で難民の間で働く矢部晶 宏宣教師にお越しいただき、日曜 日には矢部宣教師のご家族も迎 え、ともに礼拝を守る幸いを得ま した。また、同宣教師は、スイス JEGのユースや集会のためにも労

を惜しむことなくご奉仕をしてくださいました。当日のメッセージ"あなたはこのことを信じますか?"はこちらでご視聴いただけます。www.youtube.com/watch?v=oSH1BXxCHiUまた、矢部晶宏宣教師のブログはこちらでご覧いただけます。https://www.yyministry.com/













スイスJEG修養会のスナップ

3、マイヤー牧師が12月末で辞任

スイス日本語福音キリスト教会を11年の長きに渡り牧会されてきたマイヤー・マルチン牧師が今年の末に辞任されます。それに伴い役員会に、信徒の中から何人かの会員を加えて牧師招聘委員会が設立され、次期牧師の招聘に向けて動き出しました。

4、高原剛一郎宣教師のメッセージ

福音系人気ユーチューバーとしても知られる高原剛一郎宣教師 (東住吉キリスト集会責任者)が、欧州宣教旅行の半ば、6月6日から11日までスイスに滞在され、1つの講演、1つの礼拝説教、



6月9日の日曜礼拝後の記念撮影

2つの家庭集会でメッセー ジを届けてくださいまし た。

これらの欧州各地でのメッセージ録画は、ニュースレターの4ページ下部に高原剛一郎欧州宣教旅行2024講演録画としてリストアップされていますので、URLをクリックしてご視聴ください。

5.トムセン・ヨハナさんがオランダに留学されます。

スイスJEGにおいて、ユースリーダーとしても、賛美、通訳といった多くのご奉仕をしていてくださるトムセン・ヨハナ姉が神学と宣教の学びのため、この夏、オランダに1年間、留学されます。8月11日がヨハナ姉にとってスイスJEGの最後の礼拝となります。学ばれる学校



名は<u>「Cornerstone Bible College」</u>です。オランダでの学びの時が祝福されますようにお祈りします。

6、第41回ヨーロッパ・キリスト者の集いの第3信が発信



7月25日から28日まで南独シュトゥットガルト郊外Schwäbish Gmündで開催される第41回ヨーロッパ・キリスト者の集い(テーマ:時がある 伝道者の書3:1)の第3信が7月12日に発信されました。今回の集いの最終日7月28日(日)の主日礼拝(ドイツ時間午前10時)では、昨年同様に参加各教会・集会の方々に向けて、集いの礼拝会場からZoom配信を行うことを予定されています。集いの各種情報はホー

ムページの第41回の特設サイトでご覧いただけます。

7、世界各地からホットな情報が満載の月報/ニュースレター&メルマガが届いています!

工藤篤子メルマガ 、井野葉由美メルマガ、吉村美穂NL、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、森ゆり空レタ配達人、"宣教の声"が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。なお、スイスJEG会員の兄姉は、HPでパスワードを入れ、いつでも閲覧可能です。

祝福の発信地として

高原剛一郎

東住吉キリスト集会

1ヵ月にわたるヨーロッパ日本語伝 道の旅行中、1番長く滞在したのはス イスでした。実に充実した滞在でし た!

初めてお会いするはずの兄弟姉妹 が、すでに私のことを20年以上前か らご存知でカセットテープの頃から メッセージを聞いていてくださった方 がいらっしゃったのは本当に嬉しい ことでした。何か古巣に帰ってきたよ うな気がしたのです。

ところで、私は厚かましくも背骨 の手術を翌日に控えたマイヤー牧師 に長時間お電話をしてしまいました。

それはマイヤー牧師がかねてからイスラエルに深い思いを抱 いている祈りの人であり、同時にイスラエル情報通でもあると 兄弟姉妹から伺ったからです。もう我慢できなくなり、私は1 時間半にわたって電話をしてしまいました。

そこでわかった事は、17 歳まで日本に滞在したマイ ヤー先生と共通の特別な友 人がいたことでした。意気 投合しながら、互いにイス ラエルの霊的回復について 情報交換をしました。そし てスイス日本語福音キリス ト教会が特別に祝福されてい

る理由は、やはりイスラエルを

人気YouTuber

▶ ごうちゃんねる

高原剛-郎がヨーロッバへ!



祝福している教会だと言うことだ と思いました。

"福音は、ユダヤ人をはじめギリシ ア人にも、信じるすべての人に救 いをもたらす神の力です。"

ローマ人への手紙 1章16節

マイヤー先生は、リーベンゼラ グループに所属しておられたと伺っ ています。この群れは、ハドソ ン・テーラーの流れにあります。

ある時、ハドソン・テーラーは ジョージ・ミュラーに献金を送り ました。ミュラーは、イギリスで ユダヤ人伝道に取り組んでいた人 です。その時一言添えられていた のは「福音はユダヤ人をはじめ」 でした。

それから数年後、中国伝道に取り組むハドソン・テーラー に、ミュラーは献金を送りました。「それからギリシャ人のた めに」と書き添えて。まさに、ローマ人への手紙の真理を体現 する働きでした。この2人が絶大に神様に用いられた事はよく 知られていることです。

この素晴らしい祝福の原則の中で、スイス日本語福音キリス ト教会は、今なお忠実に励み続けておられる姿を見て、私自身 が多いに鼓舞されました。皆さまのような信仰者と出会うこと ができたのは、私にとって、神様からの特別なプレゼントとな りました。

スイス日本語福音キリスト教会がヨーロッパの日本人伝道の 大きな要として、また祝福の発信地として、ますます用いられ ますようにお祈りしております。



高原剛一郎欧州宣教旅行2024の講演録画

ヘルシンキ https://youtu.be/xCr1aOMlkJM

https://youtu.be/b-HzW-tkX60

スイス 歴史を貫くバイブルの 2 原則 https://youtu.be/b-HzW-tkX60

愛とは何か https://youtu.be/LUrCriPfVJk

さらに恵みをいただくために https://youtu.be/LUrCriPfVJk

ドイツ・シュトゥットガルト https://youtu.be/Tq1aymUnlSM

ドイツ・カールスルーエ 激動の世界をどう生きるか https://youtu.be/

このきっかけを大切に! ユーティライネン陽 フィンランドOVCM

高原さんが訪問ご希望のロシア国境から3kmにある"白い死神"とロシア兵に恐れられたスナイパー・シモ・ヘイへの博物館までどうすれば往復できるだろう。

企画有志の最初のミーティングでは みんなの頭に「難しい」が巡りました が、徐々に企画が楽しくなってしまい ました。企画に携わる一人一人の違っ た賜物が活かされて、神様はチームで 作り上げていく楽しさを体験させてく ださいました。

片道3時間以上のバスツアーでは、

待ちに待った高原さんのお話を聞くことができましたが、何よりも丸々1日、高原さんに個人的にも質問やお話しをする機会があるという特別ツアーでした。高原さんは、ツアーに参加



されたまだイエス様に出会っていないたくさんの方たちに福音の種を蒔いてくださいました。このきっかけを大切に、イエス様のすばらしさを伝え続けていきたいです。

真理を知って従う時に!

テーリカンガス里佳

今回の高原師のヨーロッパツアーで、フィンランドが名乗りをあげた時に与えられた私個人への御言葉は、ヨハネの福音書8章12節 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」32節 そして、「あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。」でした。

フィンランドでの旅程を調整する中で、この御言葉がどのように働かれるのかを期待していました。私は高原師のお話を聞くまだイエス様を知らない方々に、この御言葉が働かれると思っていました。高原師のフィンランドでの働きについての証は他の姉妹が書いてくださった通りです。

今、高原師が宣教を終えて日本にお帰りになり思わされている事は、このことを通して神様が私自身の心の内に強く働かれたと言うことです。私の内にある個人的問題の苦しみ、悲しみなどを主が聞いてくださり、そこに主が介入されたいと願っていると。



主は私に「謙りなさい」と言われました。主は私の心の闇の部分を見せてくださいましたが、私にいのちの光を持って欲しいと願われていると言うことがはっきりとわかりました。人間には触れることのできない心の闇に触れてくださり、そして真理を知って従う時に、私達を自由にしてくださった主ィエス様に感謝します。

バスツアーの感想

クリスチャンの女性「高原さんの講演中に寝落ちしたことを除いては、終始居心地が良く、充実した時間でした。新しい人との出会いもあり、これからもいろいろな人と出会いたいと言う欲も出てきました。」

ノンクリスチャンの男性1「懐かしい顔 に出会う機会を与えていただき、とっても 感謝しています。高原さんは歴史や世界情

勢のことに詳しく時代を理解するのにとても興味深い話ばかりでした。」

ノークリスチャンの男性2:「いろんな人に混ぜてもらって、旅行ができた事はとっても嬉しかった。楽しかった。バーベキューを楽しみにしています。」

ノンクリスチャンの女性1「初めて会う方達とも楽しく過ごすことができ良い時間でした。ありがとうございます。高原さんとMarkkuさんの話がとっても面白かったです。」

先日はお疲れ様でした。バスのシートが快適で、痛かった右わき腹が回復してしまいました。高原先生の話しは流石に記憶に残りました。エゼキエル書が伝える終末と現在の国際情勢が余りに酷似していることが懸念されますが、それはともかく思い出に残るツアー



を有り難うございました。これからも企画宜しくお願いします。

フィンランドに来てそろそろやっと3年ですが まだまだ知らないことがあるし、学んでいきたいことがある し、平和についてぐるぐると考えさせられた日でした。 貴重な機会をありがとうございました。

私はフィンエアー、ガイドの仕事も完全リタイヤして以来 エスポーでのんびりと暮らしていますが、先日のようにたくさんの方 と久しぶりに対面で会い友好を深めた事は良い経験でした。

青空クラブの感想

- 高原さんから直接子育てのアドバイスをいただき、とっても気が楽になりました。
- ぜひまたフィンランドに来て欲しいです。
- YouTubeの動画を見ます!
- とてもためになるお話が聞けました。紙芝居で親子の時間を作る など、私も試してみようと思いました。ありがとうございました。
- おいしいものを食べて、日本語で話ができてためになるアドバイスをいただける場所に感謝しています。

神様の温かさがふわり <mark>熊谷真喜子</mark> ストックホルム日本語聖書会

高原先生のお話は非常に興味深く拝聴しました、参加者の中にYoutubeで聴き、早速登録したという方も実際にお話が聴けて、益々興味を持ったと言っていらっしゃいました。

1日目はノンクリスチャン向けのお話で、旧約聖書の記述をもとに第2次世界大戦後、イスラエルの建国に至った国際政治情勢と現在の社会情勢を解釈するお話、2日目はユダヤ人の動向と世界の覇権国の歴史でした。

今回のお話で高原先生が実際に歴史を ひもといて下さったことによって聖書は歴史の預言の書である と言われていることの理由(少なくとも一部)が分かり旧約聖 書を興味を持って読んでみようという気になりました。



質疑応答の中でユダヤ 人の中で神を信仰してい る人はそれほど多くない と話されていました。信 仰と聖書については又別 の機会に聴ける機会が 有ったら興味深いと思い

ました。高原先生には後半のどの痛みにも耐えて講演してくださいましたこと、大変感謝でございました。

神様の御手に全てをお委ねします 岩崎素子

ストックホルム日本語聖書会

6月1日の講演テーマは"激動する時代で如何に生きるべきか"でした。参加者は24名。2日のテーマは、"世界は聖書でできている。歴史の謎を解くバイブル"(参加者19名)で、ストックホルムのエマニュエル教会で講演会が開催されました。

高原伝道師の卓越した 専門的知識は参加者(約85%がノンクリスチャン)にとり新しい知識と なり、お陰様で参加者の 皆さんに喜んでいただけ た集会を持つことが出来





ました。

一言、違う観点から書かせていただきますと、ストックホルムでは集会に関して2回のピンチが有りました。一つは準備を始めて間もなく、ノンクリスチャン会員の一部から自己負担をしてまで、この集会に参加する必要はないので、キャンセルにしてくれないか?との希望。

もう一つは、初日の日がストックホルムマラソン(75ケ国の世界のマラソン選手参加、プラス様々な年齢層の市民ランナーも参加、今年は12.353人参加、エントリー数20.000人)そのため市内のいたるところの道路が閉鎖、道路規制され、交通網が全く乱れ参加者は勿論、会員の足が乱れるので

はないかと心配しましたが、結果的にはキャンセル希望だった ノンクリスチャン達の120%の一致協力に助けられ集会を遂行 する事が出来ました。マラソン当日も道探し遠回り運転、混雑 した地下鉄乗車で10分間遅れで講演を始めることが出来ました。

その都度の"神様の御手に全てをお委ねいたします"の祈りに神様は答えてくださいました。"感謝!"

祈りの大切さを改めて学ばせて頂いた伝道集会でもありました。最後になりましたが、神様、松林様、高原伝道師、参加国の皆様、会員一同に心から感謝し御礼申し上げます。



心に残ったこと

参加者から

高原先生は世界の状勢を聖書を読み解き、分析した結果を踏まえてユーモアを交えてお話ししてくださいました。私にとって興味深く心に残っていることはユダヤ人の聖書での位置付けや、聖書での神との関係、ユダヤ人の世界が聖書の歴史と世界の歴史にどのように影響しているかなどのお話は興味深いとともに少し怖くなりました。

このような集会を協力しながら遂行してくださった聖書会の 皆様に感謝しています。又素晴らしい手作りのお茶菓子、コー ヒーなどのおもてなしも感謝です、アットホームな感じの中で 大切なお話を聴くことが出来た集会でした。

主よ、求める魂を! シュネル美恵 フランクフルト在住

6月4日(火)に行われた講演会には、フランクフルト日本語教会から8名、YOUTUBEを見てデュッセルドルフから来られた男性2名、計10名が参加されました。

高原さんにフランクフルトに来て頂けることが決まってから、私達夫婦の祈りは、「主よ、求める魂を講演会に送って下さい。」でした。

普段、ドイツ語の教会に通い、子供 達もドイツ語の学校に通っているため、

私達夫婦には講演会にお呼びできる日本人の知り合いは数名 しかいませんでした。

Gehr (reundlich mitorander um. sa.
so wir Goll euch durch Citi

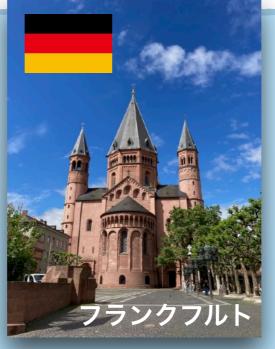
デュッセルドルフから来られたお一人は、カトリックで色々な質問をお持ちの方でした。もうお一人の方はクリスチャンではありませんが、神様を求めておられ、神様を近くに感じるためには?という質問をされまし

人数が少なかったため、お茶をしながら一人一人が自己紹介をし、高原さんに投げかけられる質問を皆で聞き、とても温かい雰囲気の中、1時間の学びのあと、90分があっという間に過ぎていきました。

会の後、デュッセルドルフのお二人は意気投合し、車で来られた方がもう一人をお誘いして、3時間"ごうちゃんねる"や聖書の話をしながら帰宅したそうです。会が終わってから、デュッセルドルフのお二人からメールを頂いたのですが、高原さんにお会いすることだけでなく、会の温かい雰囲気が印象的であったということを書いて下さいました。

私達夫婦だけでは作ることができない、神の家族の集まりの温かさ、クリスチャンの輪の中に包まれる経験を神様がこのお二人に肌で体験して欲しかったのだということがわかりました!

松林さんがフランクフルト日本 語教会を紹介して下さって、私達が 教会を訪問したのも、このような深い



神様のご計画があったのだとわかり、宣教は一人でできるものではなく、神様と神の家族が共に行うことを経験することができ、心温まる経験となりました。

100枚作成したフライヤーを見て来場された求道者は一人もいませんでしたが、フライヤーを通して"ごうちゃんねる"の宣伝を多くの日本人に神様がさせて下さったこと、またフライヤーを配る過程で、普段私が買い物をしたり、通っている美容院の日本人スタッフにクリスチャンであるということを知って頂く機会になりました。

今後の祈りの課題は、デュッセル ドルフから来て下さったお二人と、どのように関係作りを続 けていくかです。

また、来場される予定が、当日来られなかった方へのフォローも祈っていきたいと思います。松林さん、フランクフルトのためにもお祈りありがとうございました。私達も続けて、これから高原さんが来訪される国々のために祈っていきます!

私達も知らなかったことを シュネル・アーミン



講演会の翌日、高原兄とグーテンベルク博物館、ユダヤ人街記念館、そしてアンネ・フランクの生家を訪れました。

グーテンベルクでは、印刷実演 で印刷されたラテン語のヨハネ1 章を、係の方が高原兄にプレゼン

トしてくださいました!ユダヤ人街は1462年-1796年に存在し、当時のヨーロッパでは1番大きなゲットーだったそうです。私達も知らなかった色々なことを、高原兄の豊富な知識と共に知ることができて、楽しい時間を過ごしました。



高原師を我が家にお迎えして 今村葉子

スイス日本語福音キリスト教会

高原剛一郎師を我が家の集会にお迎えし、私は主からとても大切なことを 学びました。

それは一言で言うなら「生き方」です。先生はYoutube動画配信で日常のホットな話題を通して福音を伝え、難しい聖書箇所を解説されておられるので、先生の説得力のある話術の凄さは重々存じていました。

しかし、実際にお会いし、四日間宿泊していただいてさらにわかったことは、先生は思考、感情、言葉、行動が一

致しておられて、(なんと言い表したらいいのか難しいのですが)それぞれの伝達・活動機関の働きが早いと言うことでした。そしてそれが強い信念に基づいており、その信念は揺るがない主のみ言葉(真理)から生まれていることがよくわかりました。



オルテンの今村家における家庭集会

があり、何をするために 自分は創造され、その目 的のために主はどのよう な賜物をくださっている のか、それらのことを先 生ははっきり理解して生 きておられて素晴らしい と思いました。先生は特

自分にどのような召し

別な存在ではなく、私と同じ人間で、ご自分の失敗談や正直な本音もお話くださいました。私はありのままのご自分を理解し、主に信頼して大胆に召された使命に生きている先生を心から羨ましいと思いました。

『ですから、あなた方に勧めます。私に倣う者となってください。私はあなた方のところにテモテを送りました。テモテは私が愛する、主にあって忠実な子です。彼はあらゆるところの、あらゆる教会で私が教えている通りに、キリスト・イエスにある私の生き方をあなた方に思い起こさせてくれるでしょう。』1コリント4:16、17

主は私に高原先生を通して具体的に「キリスト・イエスにある生き方」を教えてくださいました。そのことは私にとって大きな励ましであり、また改めて見つめ直す目標となりました。 私も高原先生に倣ってキリスト・イエスにある生き方を主に願い求めていきたいです!



たとえ一人でも 松林幸二郎

スイス日本語福音キリスト教会

ヨーロッパに住む邦人に"イエス様の 愛を届けたい"という人生の終わりに向 かっての夢を実現する機会が、しかも そのコーディネートを私にという依頼 が届いたのが、昨年の春でした。なぜ こんなにぼけっとした私に、どういう 経由でそのような依頼が来たのか、今 もって不明なのですが、この小さく弱 い私をあえて用いようとする神様の思 し召しだったのかもしれません。

高原師が主宰する"聖書と福音"は、 15年前から愛聴してきました。定年を 5年後に控え、困難な職場に転職した私

を、関西弁丸出しの高原節の話は、どれほど勇気を与え、挫けそうな私を支えてきてくれたか計り知れません。神様は稀有な才能を持つ高原師を通じてその愛を注いでくださいました。 その恩返しの意味も込めて、その役割を非力であっても果したいと願うようになりました。

4万5千人のチャンネル登録者を持つ高原師は福音系ユーチューバーとしても有名で、日本各地で開催される講演会には大勢の聴衆が集まります。それで、講演会の開催に相応しいと思われた日本人が多く住む欧州の日本語教会に打診をしました。が、意外にも、高原師を招きたいという願いは、スイスJEGを除いて、無牧で小さな、コアメンバーが二人か数人という、しかし信仰に燃えた集会から出されました。しかも渡航費、移動費、滞在費は受け入れ集会が負うという了承のもとに。

最終的には、欧州8カ国10都市を高原師に巡回していただく企画を立てましたが、個々の集会の規模は小さいといえども、その数といい濃厚な交わりといい、私が予想していたよりも遥かに多く



高原師を我が家にお迎えして

の実をもたらしてくれたように思います。"福音を聴く人がたとえ一人であっても私は赴く"という高原師の言葉に、挫けそうになった私はどれほど励まされてきたことか、、。

コーディネーションを通じて、私がはっきり示されたことは、神様は欧州に散らばる小さな集会をこよなく愛され、それらの集会が一つの"神の家族"を形成することを願っておられるということです。準備段階を通して、受け入れ集会はオンラインで情報交換をし、祈り会を開いて絆を深めてきました。そして、その神様が紡いだ絆をどうやって継続発展していくか課題も与えられました。高原剛一郎欧州宣教旅行の成果を主の栄光のためにお返しします。

魂の疲れを癒すには

齋藤奈美子

シュトゥットガルトファイヒンゲン集会

ドイツ・シュトゥットガルト、6 月12日の特別集会は、10時から 昼食を挟んで14時まで18名の参 加者とインターナショナルバプテス トチャーチで開催されました。

お話のタイトルは「精神の疲労回復とくつろぎの秘訣」体の疲れを取るのに一番有効なのは良い睡眠であるが、魂の疲れを癒すのは何だろうという問いかけから始まり、さまざまな興味深い逸話を織り交ぜながら、創り主である神様によって生かされていることを知ることが精神の憩いのために大切であると、力強く語ってくださいました。



宣教旅行の準備に携わって 佐々木久幸

カールスルー工聖書の学び会

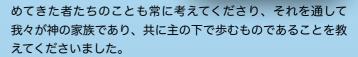
まず最初に、一ヵ月という長期間に渡り高原先生、そして受け入れ教会・集会の関係者の健康が守られ、すべての講演会・集会を主が祝福してくださり、無事に開催できたことを心から主に感謝いたします。

欧州8カ国にまたがる教会・集会が招聘連合体を結成したのが昨年の夏、それ以降共同で受け入れ準備を進めてきました。特に欧州内での移動、宿泊先の手配では、予算のことも含めて解決すべき問題点がたくさんありました。

しかし主は常に解決の道を用意さ

れ、我々を勇気づけてくださいました。「私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方にくれていますが、行きづまることはありません」 (第2コリント4:8)

主は、私たちの祈りと願いを聞いてくださいました。高原先生と言う類い稀な器を用いて各地でまだイエス様と出会ったことのない邦人に福音を伝える、という大きな目的の他にも、主は私たち準備を進



これからもすべてを主にお委ねして、主イエスの愛のもとで働くことのできる私たちでありたいと願います。最後に高原剛一郎先生ご本人、奥様そして招聘・実現にご労いただきましたスイス日本語福音キリスト教会の松林兄、そして各地の代表者の方々に今一度心から御礼申し上げます。

懇親会では、温かく、思いやりに溢れたお人柄である先生と のお交わりを通して、一人一人が神様の愛と恵みを体感してい る様子でした。素晴らしい祝福な時を集会の皆様と過ごすこと



ができ、主の御名を褒めたたえずにはいられません。高原先生、本当にありがとうございました。そして、幸二郎さん、各教会、集会責任者の皆様の多大なるご奉仕に心から感謝いたします。

終わりの時に

カウル文子

カールスルー工聖書の学び会

この度の高原先生のドイツ・カールスルーエ講演会は平日に も関わらず、遠方から来てくださった方もいらして本当に感謝 でした。

講演内容はエゼキエル38章が今まさに成就しようとしている終わりの時であることを改めて確信させられるものでした。 折しもG7開催中ということもあり、最新情報も聞くことができ、先生のネットワークの凄さに驚きました。欧州ツアーでの体験や笑いも織り交ぜつつのアッという間の一時間半でした。

質問コーナーでは、どんな質問にも快く丁寧に答えてくださる先生の姿が印象的でした。最後はイエス様の福音で締めくくられて感動しました。これを機に聖書に興味を持ってくれる人が増えますように。高原先生、ありがとうございました。



人知を超えた奇跡 高塚誠二

パリ・プロテスタント 日本語キリスト教会

今回のパリ滞在中の高原先生の2回のメッセージはどちらも感慨深いメッセージでしたが、日曜日の礼拝メッセージ「さらに恵みをいただくために」は特に私自身の人生に起きたこと、今起きていることが聖書にすべて裏付けられていることを高原先生は判りやすく解説してくださいましたので、改めに心に刻むことができて信仰をさらに堅くすることができました。

高原先生をパリの地に遣わしてくだ さり大いに用いてくださった主に、そ

して主からのメッセージを受け止めて何も付け加えたり削ったりすることなく、そのまま主のメッセージとして伝えてくださった高原先生に深く感謝しています。

さらに当日のパリ教会での礼拝に出席して高原先生を用いて大いなるみわざと栄光を現わしてくださった主、それを目のあたりにすることができた私への恵みと主からそそがれた祝福を思い返しますとき、沸々と心の底から泉のように湧い



てくる喜びに満たされ、 この思いを必ず、実兄の 一郎を始め、イエス様 を知らない方々に伝えて いかなければならない との思いがさらに強固 にされています。

私は1992年に洗

礼を受けたのち、2017年まで教会から離れている25年間の時期がありました。パリ教会の礼拝に戻ってきても、数回礼拝に出席した後に数か月間パリ教会に来なくなったり、再び礼拝に出たりまた教会から離れたりと、神様に近づいたり離れたりを繰り返していた時期が4年間ほど続きました。2022年ごろからようやく毎週の聖日礼拝を守れるようになりました。

高原先生を通じて主が語られた6月16日のメッセージは、それを聴きながら私は「嗚呼、このみ言葉は、先生が引用されたこのみ言葉は、まさに私自身の上に文字通りに起きていたことであった。」とメーッセージの途中から理解し始めたのです。

1992年に信仰告白と受洗、そして結婚しましたが私の家内は最初の数か月間は礼拝に一緒に出席してくれましたが、ある日礼拝に行くことを拒否した家内をみて、私は家内



の気持ちをおもんばかって気遣って 私も礼拝に行かなくなりました。そ れが25年間つづきました。

その間、私は「節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。世の友となりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。」のみ言葉通りに、この時期、家内の気持ちをおもんばかってばかりいて、即ち、世の友となりたいと思っていた自分であったことが6月16日の高原先生のメッセージからようやく今、理解できたのです。

しかし、主は、私に聖霊を住まわせてくださり、神様から離れていた

私をねたむほどに慕ってくださっていたのです。ですから2017年にパリ教会の礼拝に25年ぶりに出席できたことが、6月16日の高原先生のメッセージでようやく判って目からうろこが落ちる思いでした。その後、夏の修養会に参加したり、聖書通読と祈りのデボーションに背中を押されるような気持ちになって、今年の1月にはパリ教会の会員になれました。パリ教会の奉仕にも参加できるようになりました。

今ではもう、数年も前に還暦も過ぎましたし決して肉体的には若くなく衰えていますが、気持ちは主と共に生きていくことができている自分が嬉しくて、まさか自分もこのように主に変えていただけるなんてことが自分のこの身に起きていることが嬉しくなっています。それと同時に主への深い感謝の気持ちから、自分を卑下する心境からへりくだる心境へと気持ちも変えられています。

この私自身に起きていて、今でも起きている変化を今思うとき、「神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」「神は高ぶる者には敵対し、へりくだった者には恵みを与える。」「神に従い、悪魔に対抗しなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいてくださいます。」とのヤコブの手紙のみ言葉は、私の上に実際に起きた人知を超えた大きな

「奇跡」であることを現してお り、私はそれを実感していま す。

そして、自分自身に起きたことが、このみ言葉が実証していることも実感しています。主の御名は永遠にほめたたえるべきかな、ハレルヤ。



触れてはいけない聖書

佐藤一雄

パリ・プロテスタント 日本語キリスト教会

私は、高原先生のことを数年前から存じあげていました。これはもっぱら先生のYouTubeチャンネルを視聴することによるものでした。先生の番組は、キリスト教の信仰上のお話はもちろん、今日の国際情勢の分析や日本国内外の世相の問題が、軽快な調子で語られていて、とても説得力があり、強い共感を持って番組を見させて頂いておりました。

高原先生は大阪の東住吉教会を拠点とされていますので、日本では東京

にベースがあった私は、直接先生のお話をお聞きする機会がありませんでした。その先生が、今回パリにいらっしゃってパリのプロテスタント日本語教会で講演会をされると知って、この絶好の機会に是非参加させて頂こうと思いました。

この日の演題は、「国際情勢と聖書預言」(激動の世界を どう生きるか)というものでした。この日、高原先生がご紹 介された聖書の箇所は、旧約聖書のエゼキエル書第38章で

した。この部分では、

「エゼキエル戦争」というイスラエルを巡る 戦争の発生を預言しています。しばらく前の一 見平和な時代には、荒 唐無稽な想像上の物語 として聞き流されていた 内容だったかも知れません。

ところが、ここ数年は、国際情勢が急激に不安定化していて、世界の緊張と危機が高まっています。それはウクライナでの戦争の激化やイスラエルとパレスチナの戦争激化などの形で現実に進行しています。先生は、聖書預言は一字一句正確に実現するとされます。それがいつ生じるかについては聖書に書いてありませんが、いつの日か、必ずその通り実現するとおっしゃいます。その中で、「エゼキエル戦争」預言は、今次第に実現しつつあるとされます。実際に「エゼキエル書」の記述内容を、先生は具体的に精密に分析されました。このお話の内容には強い衝撃を受けました。

そして、先生は、聖書が預言する人類の災難は「エゼキエル戦争」に留まらず、旧約聖書「ダニエル書」の預言の内容や、新約聖書「ヨハネ黙示録」が預言する「最終戦争=ハルマゲドン」にも続いて行くことにも触れられました。この



「艱難時代」には、イスラエルに留まらず、全人類を巻き込んだ戦争が起こり、人類の半数以上が亡くなってしまうという恐ろしい預言がなされています。こんな途方も無い預言が、あながち荒唐無稽では済まされないぐらい、現在の世界情勢が悪化していることは、私も日々感じているところでした。

さて、1時間半に及ぶ内容の濃い講演が終わり、高原先生を囲んでの懇談の時間になりました。この日の講演はパリ4区にあるTemple du Maraisの礼拝堂で行われ、懇談会はその裏手の部屋で行われました。そこへ移動する際に、私は礼拝堂の中央に置かれた机の上に置かれていた大きな立派な聖書がふと目に留まりました。

その聖書は エゼキエル"Ezechiel"書の部分が開かれていました。最初は主催者の方が、本日の講演の為にその部分を開いたのかと思いました。しかしその聖書の置かれている机には、この聖書には触れないように"Ne pas toucher"と



明示されているので、少々不思議な気持ちになりました。

このことを高原先生がご存知かと思って、先生にお伺いしたところ、先生は大変にびっくりされて、早速にその聖書をご覧になりました。このことがきっかけで先生とお話が出来、記念写真まで撮らせて頂きました。日本では有名な伝道師でいらっしゃる高原先生に、かくも身近に接することができたことを深く感謝しました。きっと神様がこのように導いてくださったのだなと理解しております。

実は私は凡そ25年前に東京のプロテスタント教会で洗礼を 戴いた者です。しかし様々な事情があって、その後、教会活 動に真剣に奉仕することもなく日々を過ごし、12年前に自分 の余生をパリで暮らすことに決意してからも、唯の一度もパ リ・プロテスタント日本語教会の扉を叩くことがありません



でした。しかし今回の高原先生の 講演会を機に、今、私は少しでも この教会に関わって行きたいとい う気持ちが湧いてまいりました。 全ては天にまします神様のお導き だと感謝しております。全くもっ て不束な者ではありますが、どう ぞ教会の皆さま、宜しくお導きく ださい。

思いがけない再会

藤巻慎一

パリ・プロテスタント 日本語キリスト教会

見たような顔の日本人が受付に来ている。誰だったかな?顔は思い出したが誰だか名前が出てこない。こちらが自己紹介して挨拶しても名前を言わずに「自分のことを忘れてしまっているから名前は言わない」などとうそぶいている。

この男、記名帖にH…と書き始めた。ああっ!免税店のH君だ。二十数年ぶりだろうか?パリ市内とパリ近郊という生活圏の違いで今はほとんど遭うこともないこの男H君がどう

してこの高原剛一郎師の講演会に来たのだろう?



でここに来たんだよ、ザーカイの話知ってるだろ?楽しみだな~」「今日はさ、子供の運動会の先約があったんだけどキャンセルして先生に会いに来たんだから、先生に絶対にあいさつしたいからあとで紹介してよ」などと言っていた。

講演が終わり質疑応答の時間になると、前の席の女性が指名されているのに自分が指名されたものと勘違いして、真っ先に自己紹介と質問をしていたが、講演中も先生のほうを真剣な眼差しで見ていたH君を先生も気が付いて指名したのでしょう。もちろんH君はこの後の茶話会にも参加され、再度自己紹介をし、翌日の聖日礼拝にも夜の食事会にも参加され、高

原先生とも大いに歓談され、さらに翌日には空港まで見送り に行ったようである。

いる俺に「もう7年も高原先生のyoutubeを聞いていて、先生がパリにも来るというから知人にネットでパリ教会の場所と時間を調べてもらって一緒に来てもらったんだ。連絡先に藤巻の名前が

そんないぶかしがって

あったので、まさかあの藤巻ではなかろうと思っていたけど、まさかの藤巻だったよ。久しぶりだね、クリスチャンやってるの?」などとのたまっている。

更に「きょう自分はあのザーカイって男が木に上ってイエス様が来るのを待っていると言う話のザーカイと同じ気持ち

高原先生のyoutubeメッセージをずっと聞きながら高原フィーバーに侵され、いつの間にか聖書の話を覚えてしまったH君にはよりイエス様を知っていただけるようにと、パリ

教会から新約聖書が贈呈された。こうして高原先生を通して主が思いがけないたちを教会に集めてくださり、できたことを動しておいる。 がで必ず信仰の友として出くができるようにとができるようにといれましてはあります。 君ができるようにといいます。





力強い証 吉川祥永

マドリッド日本語で聖書を読む会

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。 わたしがあなたがたを休ませてあげます。(マタイ11:28)」

高原師をお迎えするにあたって、この聖書個所が主から示されました。

当日、遠方から車で3時間かけて来られた方、"ごうちゃんねる"をみて来られた方など幅広い年齢層、色んな人生経験を積んでこられた人が集められました。



る人間味」なのですが、実際の師はネットで拝見する以上に親しみやすく飾らないお人柄で、「先生なんだけど、その前に私たちはキリストにあって兄弟姉妹なんだ」と感じさせていただけました。師の生い立ちとイエス様との出会いについても貴重なお話を伺え、片道300kmの道のりを行った甲斐があったというものです(笑)。

天の御国でお会いする前に、この地上でお目にかかることが叶い嬉しく思います!!本集会を企画・運営くださった皆様、本当にありがとうございました。

高原師を通してイエス様がそれぞれに 語られ働かれることを信じ期待しま



会では、高原師がどのようにしてイエス様に出会い信じる信仰に至ったか、人間とは本来どうあるべきか、生きたイエス様と共に歩む人生についてを、ユーモアを交えた力強い証のメッセージを語ってくださいました。皆さん積極的に質問され、愛餐会では思い思いの感想を語る良い時となりました。

- 以前から是非とも一度御会い出来ればと思っていた高原師に会うことが出来て大変光栄でした。心に響くメッセージでした。
- 幼少時に教会で受けた温かい言葉の話を聞き、どんな人 に対しても思いやりの心をもって接していくことに気づ かされました。
- お話が深くて興味深く、時間があっという間に過ぎました。また機会があれば、子育てに関するお話も聞きたいです。
- 高原先生のお話を直接聞く ことが出来て光栄です。 送迎の奉仕をした際には ゆっくりとお話ができ質 問もできました。
- 私にとって高原師の魅力 はなんと言っても「溢れ



す。

その会の後、高齢のYさんを 訪ね、イエス様の福音を 語っていただきました。訪 問を大変喜ばれていまし た。

私は、高原師ご夫妻とご一

緒させていただいて、高原師の"一人でも多くの人に福音を"という伝道スピリット、そして、ご主人が最高のコンディションで動けるようにと支える奥様の姿が印象的で、お二人から沢山のことを学びました。主に感謝すると同時にお二人のご労に心から感謝します。



このような機会を設けてくだ さったスイス教会に心から感謝 します。主の祝福を祈ります。



マドリッド ソフィア王妃美術館にて

弱くてよかった 緒方美知子

Bible Coffee Break 主宰

「私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けた。」(ヨハネ1:16)

正にこのことばを味わわせて頂いた3日間でした。正直、色々な意味で不安と霊的な戦いがありました。しかし、主は恵みの計画を確かに持っておられました。アメージンググレイス! 正に驚くばかりの恵み!

コロナ後、親しい友人、一緒に聖書を読んできた求道者の方々が離れていくのを見て、悲しく伝道の意義

を見失いかけていた時でもあり、進もうとする度、明らかな 妨害、サタンの攻撃を受け続けていた時期でした。

真剣にこの邦人伝道をキャンセルした方が良いのではないかと思い祈ったこともありました。しかし、今回の高原兄姉の来欧を通して、こんなにも素晴らしい主のご計画、深い主の憐れみがあったとは・・。この瞬間を味わうために、主は前もってあえて色々なハードルを置かれたのだと感じました。

弱さの中に働く主の憐れみと力。準備をしている最中、どのように解決すれば良いのか分からないことが多々あり、その度に自分の度量不足を感じ、スムーズに進ませるために必死で主の知恵を祈り求めました。普段は自分が舞台の上で歌う立場ですが、企画者側になったのは今回が初めてでした。

福音を伝えたい友人や同僚がいました。普段、同じ立場で働いている時は旧知の仲、でも一歩違う立場に立った時、私の知らなかった同僚の新しい面やこだわりが見えてきました。12人のミュージシャンたちのバラエティーに富んだ豊かな感性や個性に上手に呼応し、活かすことの難しさを感じました。特にコミュニケーションにとても神経を使いました。色々と自分のアイデアがありました。でもそれらを思い切り捨てて、神様の助けを真剣に祈り委ねた時のみ、前進しました。

音楽サロンを借りたのは良いのですが、講壇もマイクもマ



イクスタンドも録 音、録画の設備も 無く、それらをで すのは大変ににず た。祈った時でで リギリセーフサート 直前に一度に与え



られました。祈りはきかれました。 コンサートは十色の色がキャンバス の中で、美しく調和して完成された 一枚の絵のようでした。勿論、神様 ご自身の麗しい作品でした。知らな いお客さん数人から、「今度はい つ、このコンサートがあるの?また 来たい。」と言われた時は、とても 嬉しく思いました。また、演奏して くださった方々が喜んで帰って欲い ました。

高原兄のメッセージの通訳者のルツさんとは霊の波長が合い、ドイツ語圏の方々の心にもストライクでど真ん中に入ったのを見て感動しました。一人でも多くの方に来て欲しいという人間的な欲から解放され、主のみこころが成りますようにと祈っていました。たと

え一人でも良いから、本当に求めておられる方をここに送ってくださいと祈り続けていましたが、本当にオーストリア人と日本人の方が一人ずつ、高原兄のメッセージで心が開かれました。主の計画を自分の計画より優先することが大切であることを学びました。



石川先生のお嬢様 ルツさん

日曜にはオーストリアの集会に集いました。日本人は私一人でドイツ語の集会です。そこに高原兄姉にお越しいただき、本当に霊的な交わりが可能なのだろうかと不安で、ずっと祈っていました。しかし普段は赤ちゃんの泣き声でざわざわしている部屋が、高原兄のメッセージの時だけ、シーンと静まり返り、緊迫感が溢れていました。高原兄を通して語られたみ言葉は見事に言葉の壁を破り、ウィーンの若い兄弟姉妹達にも見事なストライクでノックアウトでした。

み言葉の持つ力が言葉の壁を破りました。終わったとたん、老いも若きも高原兄に声をかけ喜びを表す姿は、正に色々な国々の人々が天で一つの家族として交わりをしている前兆でした。高原兄も携挙の前ぶれを味わっているような感覚だとおっしゃられ、本当に子供のように交わりを楽しまれている姿を見ながら涙が出そうでした。

ある若い姉妹は「来てくれてありがとう! 私たちは主の御霊で繋がっているのを感じました。あなたの主への愛、献身、伝道スピリットは私たちを鼓舞しました。どうぞ、これからも世界中を回って福音を伝え続けてください! 私も与えられた場所で伝道に励みます。」と言いました。弱くてよかった。神様にとって私たちの弱さは問題にならないどころか、恵みを注ぐ絶好のチャンスだと感じました。栄光在主!

時にかなって美しく 矢部晶宏

オーストリア・OM宣教師

これまでの人生で、人を目の前に、尊敬の思いから汗が吹き出るほど緊張したことが2度ありました。そして6月の最終週、3度目の機会が訪れたのでした。

夏の訪れを感じるウィーン、初 対面の高原剛一郎ご夫妻を目の前 に汗腺が開きました。

今回の僕のミッションは高原ご夫妻の『かばん(スーツケース)持ち』、ヨーロッパ宣教旅行中のご夫妻は、ウィーンでの集会を終え、電車でチェコの首都へ向かわれるところでした。

高原先生を目の前に緊張するのには理由がありました。オーストリアに派遣されてから数ヶ月後、妻ががんの診断を受け、約1年半の非常に厳しい闘病生活を強いられました。妻だけでなく、幼い子どもたちにとっても辛い時期、看病する僕はしっかりしなければと自らを律するものの、体は正直です。

さまざまな不調が現れ始めました。そんな期間のリラックス法 (現在も継続中) は、ジョギングシューズに履き替え、田舎道に向かうこと。携帯で賛美の曲を流し、オーディオ・バイブルを聴き、そして高原先生の聖書メッセージを聴く。ジョギングから戻ると、汗と一緒に不安やストレスも少し流れ出た気がするのです。

先生のメッセージを通して、主なる神さまから慰めや励ましや勇気を受け取り、主イエスの真実さと愛に支えられました。そんな高原剛一郎師が目の前に座っておられる。緊張を表に出さないよう努めますが、プラハに向かう車中、脇はびっしょり、自分が何をしゃべっているかわからなくなることもありました(笑)。

プラハ駅に到着すると、チェコ日本語キリスト教会の代表

の女性2人が出迎えてくださいました。高原ご夫妻が宿舎に到着したのけのプロを等所、この日のプロやのでは終了かと思うや、翌日の集会のための打ち合わせが始まりまた。まだ夕食も摂っておられない。しかし高原先



生は、「明日はどのような人が来られる予定ですか?」と参加者について聞きながらメモを走らせ、未信者の方々が少しでも主イエスさまに心を開けるよう「メッセージをこれから作ります!」とおっしゃるのです。年間340講演以上をこなす圧倒的経験、情報量と知識量を持つ先生ですが、背後にこのような綿密な準備と祈りがあることを知り、驚きに打たれました。

翌日は、チェコ日本語キリスト教会の第一回目の集会。過去に、この東欧の国の首都で、日本人のたましいのために尽力された方々がおられた歴史を聞き、彼らの祈りが、この新しい教会の誕生につながっているのかと思うと、神さまの忠実さを賛美せずにはいられませんでした。そして、主がチェコ在住の姉妹2人を呼び出され、神の

チャレンジを受取った女性たちは、御声に聞き従いながら、 祈りながら日本語教会発足のため一つ一つ準備を重ねてこら

れたのです。そこに、このタイミングで高原先生が導かれた。

伝道集会は、笑いと感動に包まれ、信仰者は主の偉大さをほめたたえ、未信者はイエス・キリストに思いを巡らせる麗しい機会となりました。プラハの地で産声を上げたキリストの教会、主のあたたかい眼差しが注がれている。そう感じました。



ハードスケジュールの中、遠いヨーロッパに住む同胞に福音の素晴らしさを届けてくださった高原ご夫妻、彼らの欧州宣教旅行を陰で支えられた多くの方々に感謝を捧げ、すべてを時にかなって美しく成してくださった主イエス・キリストに栄光をお返しします。



喜びと共に

黒田閑恵

チェコ日本語キリスト教会

チェコ日本語キリスト教会(cic)は、 昨年2023年秋にできたばかりです。で きたと言うより、今も出来つつある進行 形で、教会員2人が希望と試行錯誤で歩ん でいるところです。

まだ教会名も決まっていなかった時、ス イスの松林兄からのお尋ねがありまし た。高原師が欧州宣教旅行で各国を回ら れるが、チェコはどうですか?とのこと。 この素晴らしい機会を逃すわけにはいき ません。後先のことは何も考えず喜び勇ん で「はい!」と手を上げました。欧州宣 教旅行の最後の集会としてプラハにお迎え することになりました。



きました。ダビデとゴリアテの 戦いを引用し、自分の使いなれ た道具を武器にしたダビデのよ うに、身の丈に合った働きを 等、建設中の教会にとって、私 たちは何ができるのかを具体的 な事例も交えて話してください ました。どれも大事な教えであ り、力強い励ましでした。

高原師が来られたことは、こ の教会に神の祝福を運んでくだ さった棟上げ式だったのです。 昔、日本で見た棟木の上に輝く 松の枝が見えるようでした。

この集会が終わって、しばら くして思い出した昔の映画があ ります。「野のゆり」という題

です。気軽に車で旅する黒人青年が、荒れ地の田舎家に住む、 当時のソ連圏の東欧から逃れてきたシスター達と偶然出会い、 教会を建てることになってしまう物語です。

そこには、主人公の旅の青年、亡命シ の登場人物がいます。



スター達と強気の院長以外にも、立派な 教会に派遣されることを願っていたが 「神がここに私を遣わされた。」と、車 で村や町を巡回礼拝する神父等、何人も

何十年も前には見えなかったこと、救われ信じる者となり初 めて見えてきたことがありました。神様が喜ばれたのは、仕事 をした青年、強い信仰と意志を持った院長、シスター達と同じ く、いえ、おそらくもっと、教会建設の手助けに駆けつけた近 隣のごく普通の人々でした。喜んで、賛美の心でレンガを一個 ずつ運ぶその人々を何より喜ばれ、受け取られたと思うので

喜びと共に運ばれたレンガ1つ、この意味の大切さに高原師 は光を当ててくださいました。教会の大きい小さいに関わら ず、それぞれに与えられた賜物を感謝して受け取り、主の栄光 のために用いることへの高原師からの祝福に心より感謝しま す。

そして、この企画に関わり助けてくださった松林兄、全ての 兄弟姉妹、主に在って感謝します。ありがとうございました!!

チェコ日本語キリスト教会の新設ホームページ https://ty4design.wixstudio.io/czech-japan-church

「家の教会」は、プラハの那美姉の住居、も

う1人である私(黒田閑恵)がそこへ 行くのに約3時間かかります。人手

はこの2人、それを神様は用いられ ました。もちろん企画自体に多く の主に用いられた兄弟姉妹の働き があってこそ実現したことでした。

1回目の講演に3人の未信者が来られ ました。初対面の方もおられましたが、久

しぶりに会う親戚が集まったような和やかな雰囲気の中で、心 温まる時間となりました。高原師は、YouTubeで見られるよ うに、時々ユーモアを交えながら1人1人と話してくださって いました。

高原夫人はとても気持ちの 健やかな印象の方で、高原師 の良き理解者、良き伴侶とし ての働きを神様から与えられ ておられると確かなものが伝 わってきました。そして、オー ストリアのリンツから力強い 助っ人として来られた矢部宣



教師。私たちはどれほど助けられたことでしょう。そして主賓



である3人の未信者の方々。私 たち2人。これがこの時の全員 でした。

翌日の信徒集会は「健全な教 会の形成を求めて」をテーマ に、聖書に基ずき教えていただ